

ある日の知事

ある日の知事

福井県知事 西川 一誠



全国植樹祭のシンボルを引き継ぐ知事

■ 全国植樹祭の秋田大会

六月十五日（日）

第五十九回全国植樹祭の記念式典が、天皇皇后両陛下のご臨席の下、秋田県北秋田市の「北欧の杜公園」で開催された。

陛下は、お言葉の中で、前日に東北地方を襲った岩手・宮城内陸地震に触れられ、被災された方々を気遣われていらつしやう。被災地の皆様にご心からお見舞いを申し上げるとともに、このような中で式典の円滑

な運営と災害への迅速な対応に当たられた秋田県の皆様には深く敬意を表する。

さて、式典会場は広大な緑地で、周辺はまだ新緑という言葉がふさわしい季節感である。田んぼの苗の伸び具合も、福井より三週間ほど遅いという感じか。会場では、遠くからも竿燈の先が見えた。イベント広場に入ると、勇壮な綴子獅子踊りやなまはげ郷神楽など郷土芸能で歓迎を受けた。

式典の最後の「リレーセレモニー」では、次年度開催県の知事として、寺田秋田県知事から全国植樹祭のシンボルの引継ぎを受けた。本県の開催テーマは、「未来へつなごう 元気な森 元気なふるさと」である。積極的に県民運動を進め、全国から多くの皆様をお迎えできるように、しっかりと準備していきたい。

■ ふくくからめき

フェスティバル

六月二十一日（土）

今日も蒸し暑い。少し日が射している庭の芝生の上には、白い夏つばきの花が三つ落ちていた。

今日の午前中には、男女共同参画のイベント「ふくいきらめきフェスティバル」に出席した。

上川内閣府特命担当大臣の講演では、日本人の平均年齢が、戦後の二十六、七歳か

ら現在は四十三歳に上昇し、あと半世紀たつと五十五歳位になるというお話があった。

それで働き方の変革、例えば仕事と家事や育児を両立させるワーク・ライフ・バランスが必要になる。子育て支援について、企業は経営的に見て厳しい面もあるが、子育てを心配せずに仕事に集中できる環境を作ることが、企業の活力を生むと述べられた。午後少し時間ができたので、インゲン豆の棚作りを始めると、二歳くらいの男児を連れた近所のお父さんから声をかけられた。坊やは、ヘルメットをかぶって、得意気に自転車にまたがっている。

杭を三本打つことになったが力仕事だ。打ち込んだ杭が傾いてしまう。切竹を組もうとすると雨が落ちてきて、急いで帰宅した。近所の公園に、夾竹桃の白い花が咲き出した。先月訪問した中国杭州市と比べると、花期が一カ月近く遅いようだ。

■ ふくい特産市

六月二十七日（金）

新聞上が人事異動の記事でにぎわうようになり、今年もこのような時期が来たのかと思う。

福井県農業会館で、福井県農業協同組合中央会や各農業協同組合連合会の通常総会が開かれ、来賓として出席した。

農業は、県民の生命と豊かさを足元で支

える大事な産業であるが、ここ数年、本県の農業生産額は減少傾向にある。

そこで、関係者による検討会を設置し、農業の課題や進むべき方向について議論をいただいている。農業・農村を再生するための戦略を今年度中に策定する予定である。「環境農業推進計画」「食育・地産地消推進計画」についても、関係する人たちのご意見をいただいで、役立つ計画になるようにしなければならぬ。

総会への出席に先立って、農業会館前で



ふくい特産市で県産米をPRする知事

開かれていた「ふくい特産市」をながめた。スイカやメロン、かぼちゃアイスなど福井自慢の農産物が格安で販売されている。

福井県が生んだ「コシヒカリ」も一升枰五百円で量り売りしていたので、法被を羽織ってお手伝いした。盛りを多めにサービースした甲斐があつて、とてもよく売れた。

■福井地震を教訓に

六月二十八日(土)

本日、福井市フエニックス・プラザで「地震防災セミナー」が行われた。六十年前の昭和二十三年六月二十八日は、死者が約三千八百人、負傷者も約二万八千人に及んだ福井地震が発生した日である。

私たち福井県民は、この地震から得た教訓を語り継いで、震災対策をより一層充実させていかなければならない。

セミナーには、県内各市町などの防災担当者や一般県民の方々など約四百人が参加し、災害に対する意識の高さが窺えた。

このセミナーでは、専門家を招いて、近年発生した能登半島地震や新潟県中越沖地震で明らかになった課題や教訓、北陸地方の地震についての最新の研究成果などが解説された。

また、午後には、福井県とゆかりのある東京都荒川区から、荒川区青年団体連合会の方々をお迎えした。

荒川区には、幕末の福井藩士・橋本左内の墓や、杉田玄白が腑分けの見学をした小塚原がある。また、荒川区出身の作家・故吉村昭氏のご夫人で作家の津村節子さんは福井出身である。このようなことを紹介しながら、荒川区と福井県とは歴史的にも文化的にもつながりがあると話はずんだ。

都区部でも団員は集まらないとのことであり、青年団活動は難しい局面にあるが、広い視野を持って活性化策を模索して欲しいと思う。



地震防災セミナー開会式